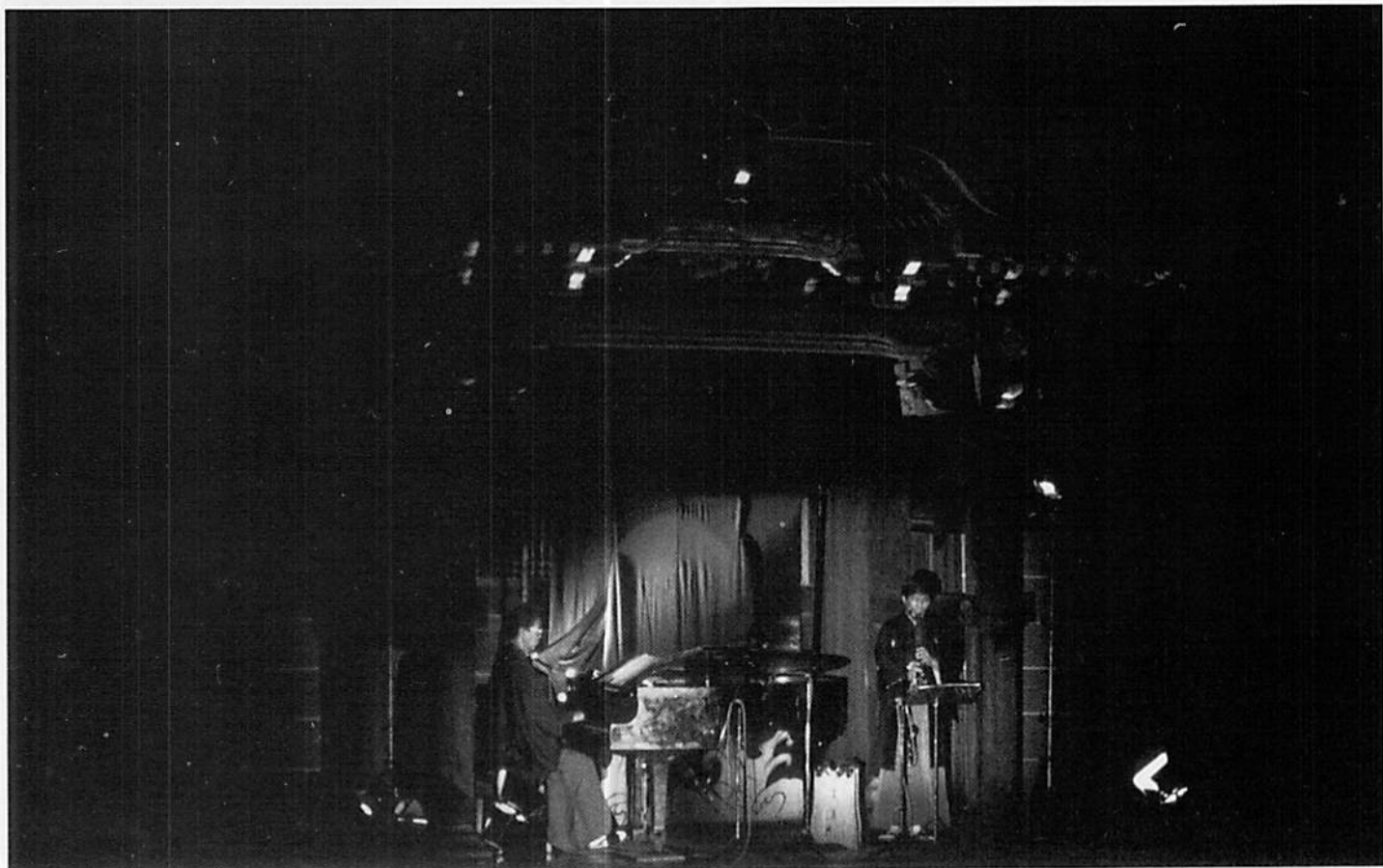


雨上がりの夜空に輝いた、音と光のカンパセーション。



対偶とは、たとえばポルトとナット、左右、夫婦のように、異質のものが二つで一そろいになっていること。ピアノと尺八の出会いも異種マッチ。

## 『夢ひびき』 それは神宿る山への奉納。

名利だらけの京都のなかでも、東山の高台寺は親しみ深い来歴のお寺さんだ。北政所ねねが興した豊臣秀吉の菩提所であり、小堀遠州の庭園や千利休の茶室など、桃山時代の夢を今に伝えている。だが、もちろん夜間に一般公開された例はない。「お禁制の白州」である夜の境内で、去る11月13日、ピアノと尺八によるジャズ演奏『夢ひびき』が奉納された。京都デザイン協会主催の「サウンドスケープin東山・高台寺」。92年8月の「サウンドスケープin大原・三千院」の好評に意を良くして行われた、文化ナイトフォーラム第二弾である。

夜の境内に現出したのは、競い合う色・形・空気・音。その照明部分を担当したのは『街の色研究会・京都』という市民グループ。400年来の庭園初のライトアップだけに、草木や苔の一筋もいたためまう苦勞は多かったが、その甲斐あって演奏とのコラボレーションは、実に見事。東山をバックに浮かび上がった幻想的な光景に、地下の小堀遠州もうなづかしたかもしれない。

奉納演奏を行なったのは、ピアノ・西山靖夫と尺八・川村泰山によるジャズ・ユニット「対偶」。異種格闘技戦に似た視覚的な緊張感。対峙する二つの音が懐かしい旋律のなかにとけ合うセッションは息もつかせず、方丈に集まった観客を魅了した。

当日は季節外れの台風が京都をかすめ、朝から吹き降りの悪天候。境内での演奏だけに、延期ではと危惧した観客からの問合せが相次いだ。高台寺側では「嵐でも決行します」との力強い返事。交通の混乱による多少の出足の遅さはあったものの、執事長・後藤正元師の法話が始まると同時に、雨はびたりと止んだ。これも、神の宿る山——東山の威力であろうか。

8年ぶりに京都公演が行われた花形狂言会。次世代を担う若者が「釣狐」に挑んだ。



2月17日京都戦世会館で、公演を終えたばかりの茂山正邦。彼は立命館大学の学生でもある。

## すべて描きだす表現者めざして。 茂山正邦、21歳の花形デビュー。

「父からこの話を聞いたのは、去年の春だったと思います」と、狂言師の卒業論文と呼ばれる「釣狐」に挑むことになった茂山正邦は語った。

狂言二大流派のひとつ、大藏流を伝承する茂山家の若手で構成される「花形狂言会」。今までは人間国定、12世茂山千五郎の長男で、尊敬する父、正義が「花形」として舞台上に立ってきたが、昨年末、その座は正邦へと譲られたのだ。

物語は、狐師が仲間を殺すのを見かねた狐が、彼の叔父である白藏主という僧に化けて、狩狐を阻止しようとしたが、不審に思った狐師はワナを仕掛けた。狐はそれと知りつつ、エサに飛びついてしまおうという、狐の心理を巧みに描きだす作品である。

この世界では「猿にはじまり狐におわる」といわれており「釣狐」を演じたものだ

「父からこの話を聞いたのは、去年の春だったと思います」と、狂言師の卒業論文と呼ばれる「釣狐」に挑むことになった茂山正邦は語った。狂言二大流派のひとつ、大藏流を伝承する茂山家の若手で構成される「花形狂言会」。今までは人間国定、12世茂山千五郎の長男で、尊敬する父、正義が「花形」として舞台上に立ってきたが、昨年末、その座は正邦へと譲られたのだ。

物語は、狐師が仲間を殺すのを見かねた狐が、彼の叔父である白藏主という僧に化けて、狩狐を阻止しようとしたが、不審に思った狐師はワナを仕掛けた。狐はそれと知りつつ、エサに飛びついてしまおうという、狐の心理を巧みに描きだす作品である。

この世界では「猿にはじまり狐におわる」といわれており「釣狐」を演じたものだ

ライター／藤枝雅一

女性は20代前半が過半数。みんなしっかりがんばれよ。



## 引っ込み思案な彼氏と彼女の はじめのどいっぽ。

不倫が大流行したバブルが  
はじけ、やっと戻ってきた純  
愛すらも若者たちの手から中  
年層が横取りする時代である  
『ノルウェイの森』当初から  
怪しかったが、『マディソン郡  
の橋』で、彼らの魂胆は実に  
明白になった。いつも自分の  
わきをすりぬけてしまう恋愛。  
世の中のすべての人がカップ  
ルのように見えてしまうとき  
ほど、シングルにとって辛い  
ときはない。だけど恋愛は、  
なにも特権階級の持ち物では  
ない。ましてや団塊の世代の  
専売特許ではないのだ。ほく  
らにも、恋愛の自由はあるは  
ずだ。

12月11日の夕方、河原町VO  
Xで行われたクリスマス・パ  
ーティ in VOXに集まっ  
た60名の男女は、クラブフェイ  
ムと結婚情報の老舗OMMG  
のお誘いで集まった、出会い  
を求める内気だけど勇気ある  
人々。結婚情報会社主催のパ  
ーティというと、集団見合

いだの「ねるとん」だのと、  
胡散臭がるムキも多いが、中  
身は実にフランク。決してあ  
てがいぶちではなく、アタッ  
クするも引くも個々の裁量に  
任されている。見ず知らずの  
人と話すのは誰だって苦手な  
ものだが、スムーズな誘導と  
会場の熱気が、心のトゲをち  
よっぴり和らげてくれる。

過激になるばかりのマスコミの性的露出度の高揚とはう  
らはらに、みんながみんな、  
気味に異性と口をさけるわけ  
じゃない。お調子者のやつほ  
ど甘い汁を吸うのが、この世  
の辛い掟なのかもしれない。  
だけど、口下手だってかまわ  
ない。シャイなのはほくのせ  
いじゃない。相手の事情を思  
いめぐらす、ほくの心のせい  
なんだ。そんな心優しい彼と  
彼女の、歴史に残る第一歩と  
なれば、まずまずこの企画は  
成功と言えるのだが。

ライター／大首美弥子